

令和3年度

事業報告書

自令和3年4月1日 至令和4年3月31日

公益財団法人中近東文化センター

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 組織運営

(1) 理事会・評議員会開催状況

下記会議を開催、各議案を採択、審議の上、了承を得た。

① 令和3年7月28日 第1回理事会 (WEB会議)

- 【議案】 ア. 令和2年度決算及び事業報告の承認
イ. 理事長の選任の承認
ウ. 理事・監事再任の承認
エ. 業務執行理事報告
オ. 評議員会の招集

② 令和3年9月9日 第1回評議員会 (書面決議)

- 【議案】 ア. 令和2年度決算及び事業報告の承認
イ. 評議員の再任の承認
ウ. 理事・監事再任の承認

③ 令和4年2月15日 第2回理事会 (WEB会議)

- 【議案】 ア. 令和4年度収支計画及び事業計画の承認
イ. 理事長業務報告及び業務執行理事報告
ウ. 評議員会の招集

④ 令和4年3月16日 第2回評議員会 (書面決議)

- 【議案】 ア. 令和4年度収支計画及び事業計画の承認
イ. 評議員の選任と辞任の承認

※その他 令和3年4月12日 総裁、理事、監事懇談会開催

(2) 寄付金・助成金の受け入れ

令和3年度の各事業は、下記法人及び自治体の助成金等により、実施した。

- ① 公益財団法人 JKA (下記2(1)①～③及び⑥に充当)
- ② 公益財団法人 出光美術館
- ③ 公益財団法人 住友財団 (下記2(1)①～③に充当)
- ④ 独立行政法人 日本学術振興会 (下記2(1)③に充当)
- ⑤ 三鷹市

(3) 内閣府立入検査

日時 : 令和4年1月12日

検査内容 : 前回指摘事項の改善状況、各公益事業の実施状況
会計処理、コンプライアンス遵守状況等

検査結果 : 運営状況は大変良好との講評をいただいた。
但し、口頭での改善指摘事項が3点あった。

2. 事業活動

中近東文化に関する調査研究、知識普及、資料収集・保管・展示・提供

(1) 中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

新型コロナウイルス蔓延のため、2021年の発掘調査、遺跡踏査は、カマン・カレホユックではクリーニングのみ、また、ヤッスホユック、ビュクレカレでは小規模の調査に止めたが予想を大きく上回る成果を上げることができた。

① 第35次カマン・カレホユック発掘調査

(大村幸弘所長)

7月初旬から9月初旬に、北区、南区の2発掘区で調査予定であったが、新型コロナウイルス蔓延のため欧米の研究者がトルコに出国出来ず、発掘調査を中止。文化・観光省の許可を得て、7月1日から25日に発掘区のクリーニング及び過去に出土した遺物の整理、実測、撮影を行った。

② 第12次ヤッスホユック遺跡発掘調査(令和3年)

(大村正子研究員)

9月初めから11月中旬に実施の調査では、遺丘の中央部で確認され全容がほぼ判明している前期青銅器時代の大型建築遺構の一部の取り外しを行った。この遺構は唐突に出現したものとは考えにくく、一部はピットなどにより破壊されその直下に火災を受けた建築遺構の存在が調査で明らかになっていたが、今回の調査でその一部が検出され宮殿と推察される大型建築遺構の直下にもほぼ同じ形態の遺構の存在が確認された。これはアナトリアの前期青銅器時代の宮殿などの大型建築遺構の発展過程を探る上では極めて重要な発見と考えている。同時に遺構の壁体の一部から確認されているナイフ型の鉄製品は分析の必要があることから、トルコの文化・観光省に申請中。前期青銅器時代の鉄製品であるとすれば、アナトリアの鉄生産に関して、新知見となる可能性が高い。

③ 第12次ビュクリュカレ発掘調査（令和3年）

（松村公仁研究員）

5月下旬から7月末の調査では、城壁が建設される際に、後期青銅器時代に年代付けられるヒッタイト帝国時代の文化層が破壊された可能性が断面からも読むことが出来ていたため、城壁の取り外しを行った。それによって破壊された帝国時代の建築遺構の一部の確認に努め、城壁の直下からは火災を受けた帝国時代の遺構が、また、城壁外の一部からは帝国時代のミタンニで使用されていたフリ語で記された粘土板文書が3点確認され、帝国時代においてヒッタイト帝国へのミタンニ王国の影響がどのようなものであったかを語る上で極めて貴重な史料であると考えている。

④ 収蔵庫修理と出土遺物整理

（大村正子研究員）

旧収蔵庫の補修と収蔵庫内の遺物整理を行った。ヤッスホユック、ビュクリュカレの出土遺物は研究所の新収蔵庫に収められているが、1985年～2019年までカマン・カレホユックで出土した遺物は、旧収蔵庫に収められており、旧収蔵庫の補修とともに遺物の洗い、整理を行った。

⑤ 遺物踏査で採集した土器片の整理と実測作業

1986年から中央アナトリアの遺跡踏査を行い、各遺跡から50～200点の土器片を採集。遺跡踏査の本報告を出版するにあたって、それらの遺物の実測と撮影を行った。

⑥ 2020年度トルコ調査報告会・第31回トルコ調査研究会

（大村幸弘所長）

令和元年の第34次カマン・カレホユック、第11次ヤッスホユック、第11次ビュクリュカレ発掘調査及び研究成果を発表する研究会は、新型コロナウイルス蔓延のため中止した。

⑦ アナトリア学勉強会（アナトリア考古学研究所）

オンラインライブ配信での勉強会を開催した。

ア. 第260回 2021年7月3日

2021年度ビュクリュカレ遺跡発掘調査（松村公仁研究員）

イ. 第261回 2021年8月29日

カマンカレホユック遺跡発掘調査（大村幸弘所長）

ウ. 第262回 2021年10月23日

4200年前の都市ヤッスホユックの発掘現場から（大村正子研究員）

- エ. 第 264 回 2021 年 11 月 20 日
 カマンカホックの出土遺物について (大村幸弘所長)
- オ. 第 265 回 2021 年 1 月 29 日
 ビュルクカ遺跡とガラス遺物 (松村公仁研究員)
- カ. 第 266 回 2021 年 2 月 23 日
 ビュルクカ遺跡とガラス遺物 2 (松村公仁研究員)
- ⑧ 考古学フィールドコース
 新型コロナウイルス蔓延により中止したが参加予定者へのオンラインでの勉強会のみ実施した。
 第 3 回考古学フィールドコース勉強会 2021 年 4 月 23 日
- ⑨ トルコでの調査報告会 (大村正子研究員)
 令和元年、アナトリア考古学研究所が実施の 3 遺跡に関する調査報告会は、(対象：大学、博物館関係者、地域の人) 新型コロナウイルス蔓延のため中止。
- ⑩ ワークショップ (2021) (大村幸弘所長)
 前期青銅器時代の都市化に焦点を合わせたワークショップをイスタンブールのコチ大学と共同で開催する予定だったが、新型コロナウイルス蔓延のため中止。

(2) 中近東文化センター附属博物館

① 展示活動

ア. 本年度は、東京都に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が継続して発出されたため感染防止のため休館を継続した。

開館日合計：55 日。

イ. 春の特別開館、武蔵野市と連携で行っている夏の特別開館は中止した。但し、例年三鷹市との連携事業として行っている秋の特別開館は緊急事態宣言が 10 月初めより解除されたことを受け、新型コロナウイルス感染防止に関して日本博物館協会と三鷹市のガイダンスに沿った形で 10 月 20 日より 24 日まで開催し多くの市民に喜んでいただいた。

ウ. 団体見学の受入れは、新型コロナウイルス蔓延により中止した。

② 公開講座

ア. 親子体験講座

例年武蔵野市とタイアップし地元小学生と親向けに実施していた博物館展示品のスケッチと粘土の焼き物絵付け「古代オリエンタ探求—粘土で作ろう！中近東の宝物—」は新型コロナウイルス

ルス蔓延防止のため中止となった。

(3) 三笠宮記念図書館

本年度は東京都に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が継続して発令されたため感染防止のため休館を継続した。

開館日合計：47日

(4) 三笠宮殿下研究保存活動

三笠宮崇仁殿下のご研究資料の整理、記録の作成は、新型コロナウイルス緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が継続して発出されたため中断した。

(5) 地元自治体との連携事業

① 三鷹市

三鷹市民向けの秋の特別開館（10月20日～24日）期間中に三鷹市在住の視覚障がいをお持ちの演奏家を招いてミニコンサートを開催、博物館見学を含め多数の市民からの応募があり好評を博した。

② 武蔵野市

上述の通り、新型コロナウイルス蔓延のため、夏季の特別開館、親子体験講座とも中止となった。

(6) 研究成果等の刊行

① アナトリア考古学研究 Vol. 22 (大村幸弘所長)

発掘調査及び関連研究の成果の公刊に関しては、カマン・カレホユック、ヤッスホユック、ビュクリュカレの概報を作成中

② カマン・カレホユック本報告書 (大村幸弘所長)

刊行のための準備継続中。特に、北区の東側断面図作成

③ カマン・カレホユック 35周年報告 (大村幸弘所長)

各シーズンの主な建築遺構、遺物、空撮、調査隊員名簿、各シーズンの主なプロジェクト、訪問者、これまで発表された報告、論文等を掲載予定。

2. その他の事業

(1) 物品の販売（収益事業）

博物館でのカタログ、ミュージアムグッズ等の物品販売は休館が多かったため少なかったが、ホームページによる通信販売を継続して

行った。

(2) 視覚障がい者との連携

国際基督教大学の点訳サークルの学生に博物館のリーフレットの点訳を依頼。当館へ来館してもらい展示物を説明、ハンムラビ法典碑やキュネホームの壁などにじかに触れていただくことで中近東文化への理解を深めた。また、筑波大学附属視覚特別支援学校より見学など利用したい旨の話しがあり、新型コロナウイルス終息後には交流を深めることとする。

以上